

速報!!

復興区画整理地区 鷹取東第二地区の発掘調査

— 須磨区寺田町1・2丁目の発掘調査から —

えびぢょう
戎町遺跡って? 寺田町って?...

区画整理が進む寺田町1・2丁目での発掘調査では、昔の人々の様々な生活のあとが発見されています。この寺田町周辺を私たちは「戎町遺跡」と呼んでいます。

戎町遺跡は、板宿駅の南側に広がる大きな遺跡で、^{だてあなじゅうきょ}竪穴住居や水田、たくさんの土器が発見されるなど、特に弥生時代（今から約2,300年前から1,800年前頃）にはこのあたりの中心的な「ムラ」として栄えていたことが今までの調査によって明らかになっています。

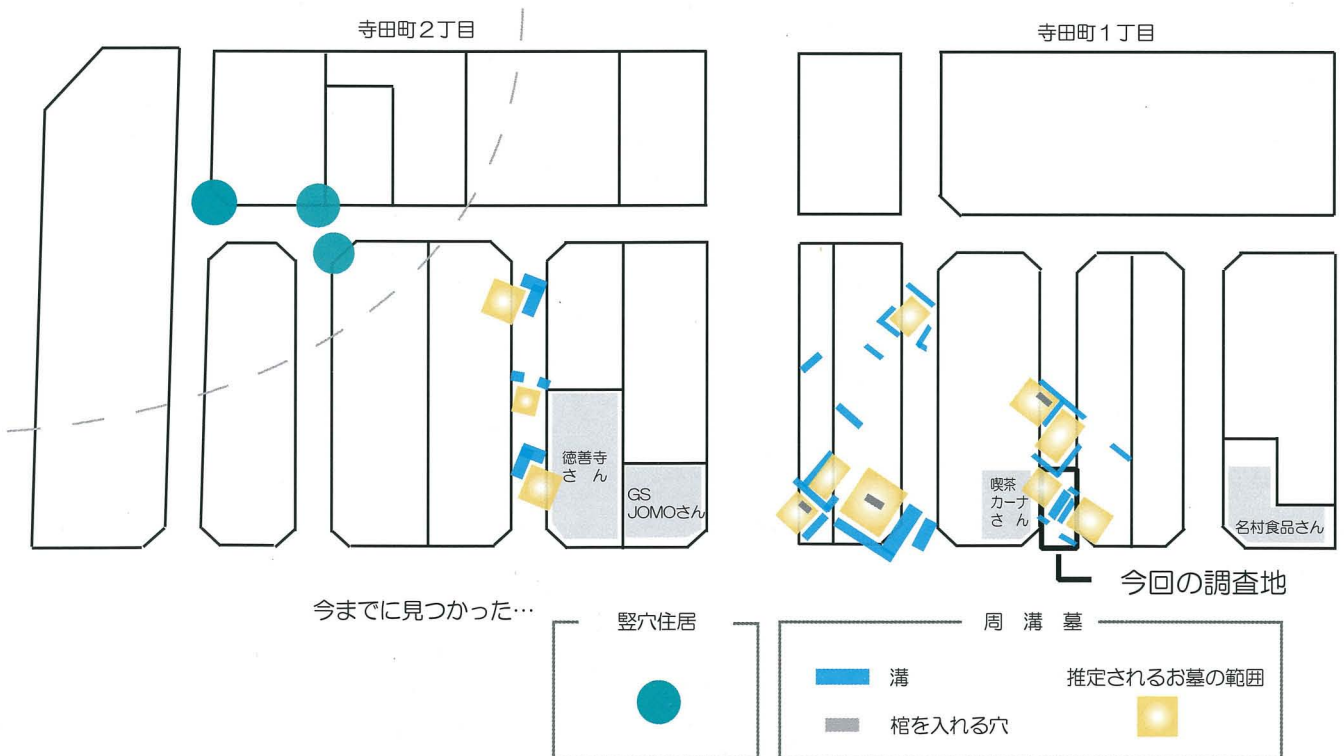
さらにこの寺田町周辺の調査では戎町遺跡を考える上で重要な、新たな発見が続いています。…それは戎町遺跡を築いてきた人々のお墓の跡が発見されたことです。

今回の調査地では弥生時代（今から約2,000年前頃）のお墓の跡が見つかっています。

このお墓の特徴は周囲に溝を巡らしていることで、ちょっと難しい言葉ですが考古学の用語では「^{しゅうこうぼ}周溝墓」と呼んでいます。造られた時には盛り土があって、マウンドのようになっていたと考えられますが、後の時代、水田や畑を耕す時に地面が削られ、調査の時にはほとんどが残っていません。棺をおさめる穴も同じで、わずかにその痕跡が見つかる程度です。ただし、この時代にはお墓に丁寧に葬られる人々は限られており、身分の高い人々が眠っていたと推定されます。

今回の調査では、お墓を区画する溝と溝の中からはお供えの壺などの土器が見つかっています。寺田町周辺の調査によって、戎町遺跡のいろいろな様子が見えてきました。

皆さんが普段、何気なく歩いている地面のすぐ下には弥生時代の世界が広がっているのです。



寺田町周辺で見つかった周溝墓（溝）とお供えの土器



②-1



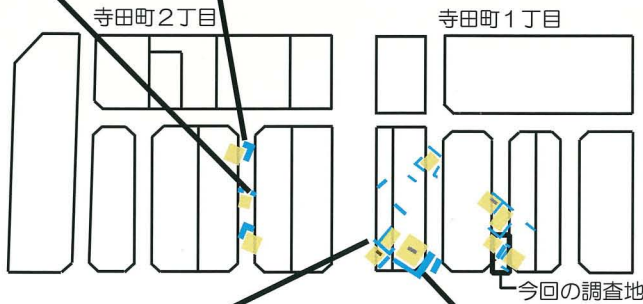
②-2



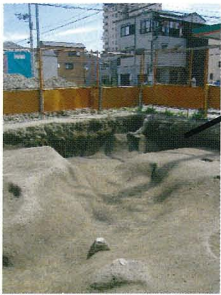
②-3



②-4



お供えの土器を粉々に砕いていました。



①-1

前に掘った溝を利用してそれに溝を足して新しいお墓を造ったようです。



①-2

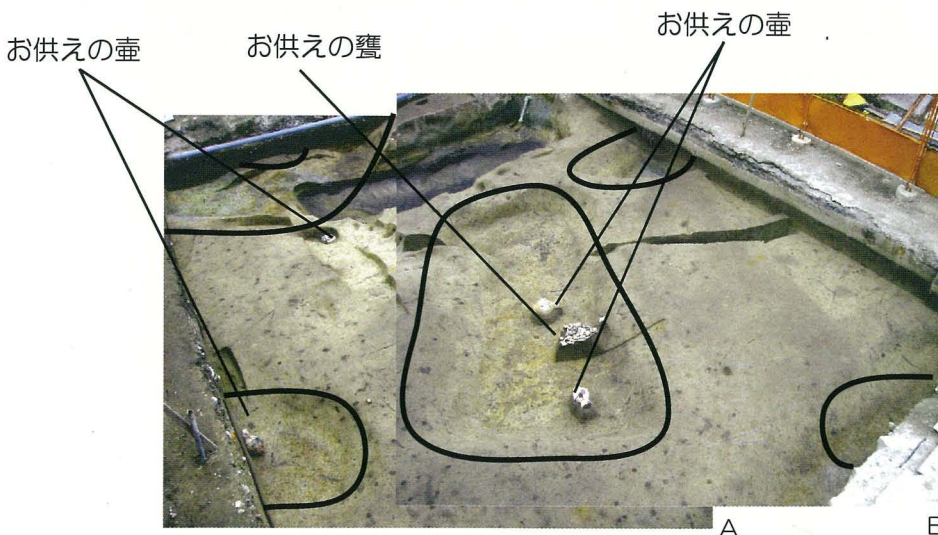


①-3

お墓の溝にしては珍しく、たくさんの土器が棄ててありました。

ご覧ください

—今回の調査地です—



C

壺の胴体に穴があげられています。お供えの土器によく見られます。

で引いた部分が溝の輪郭です。

今回の調査地では、お墓を区画する溝が5本見つかりました。溝の中にはお供えの土器が置かれていますが、これほど良好な状態で出土することは非常に珍しいといえるでしょう。

お問い合わせなどありましたら…
神戸市教育委員会文化財課
電話 078-322-6480